
彼の言葉

由 快

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼の言葉

【Nコード】

N3806D

【作者名】

由 快

【あらすじ】

ある日、彼の何気ない一言から始まったStory。

「君は誰の為に生きてるの？」

「つて、彼が突然聞いてきた。私はあまりに突然で、どうしてそんな事を聞くのか意図もわからなかったので、黙っていた。」

「なんてね」と彼は静かで重い空気を打ち破るかのように呟いた。

（なんだっただろう…）

私は彼の言わんとしている事が理解出来なかった。

翌日の夜。

私は、ちよつと小洒落たバーのカウンター席で、彼と肩を並べていた。

特に何て事のない話題が一区切り付いたところで、私は、昨日からの疑問に思っていることを語り出した。

「ねえ、何故あんな事聞いたの？」

「え？何？」

「昨日、私に聞いたでしょ？『君は誰の為に生きてるのか』…つて」

「ああ、あれか…」

「どうして、そんなこと聞くの？」

私は彼の顔をまじまじと眺めながら聞いた。

「特に、理由なんてないよ」

「理由もなしに聞くの？」

「つていうかさ、…ちよつと思いだしたんだよなあ」

「何を…？」

彼は真つすぐの姿勢で、遠くを見ているような目をしていたが、ふつと私の方に顔を向けて少し笑った。そして、

「おふくろ、さ」

「…？おかあさん？」

「ああ」

私はますますわからなくなつた。『誰の為に生きてるのか』が何故、お母さんと繋がっているのか。

「どういう事？」

私は素直に聞いてみた。

彼はまた真つすぐな姿勢に戻り、ジン・トニックを一口飲んでから、静かに語り始めた。

「実は、昔さ、家族団欒の時にさ、おふくろが突然こう言ったんだ」私は彼の方に視線を向けながら、黙って聞いていた。

「『この世で一番の親不孝な者は、親より先に死んじゃう子だよ』って。」

…なんかさ、その言葉がずっと耳に残っていて。俺はきつと今は、おふくろの為に生きてるんだろ？なア、って思ったりするんだ…」

彼は言い終えると私の方に振り向き、フツと笑った。

私は何も言わなかった、いや、言えなかったというべきなのか。彼の言葉、いや彼のお母さんの言葉に説得力があつたのが理由の一つかも知れない。

そんな会話があつた一週間後に、旅客飛行機の墜落事故が起きた。生存者の見込めない大惨事となつた事故だつた。

その飛行機の中に乗っていて、犠牲者の一人として彼の名前が報じられたのは、翌日だつた。

彼の葬儀には多数の人が訪れた。

報道陣も何人かいた。

勿論、私も参列した。とても悲しかったが、まだ、さほど実感はない。

焼香を済ませ、帰ろうとしたとき彼の母と名乗る人に呼び止められた。

彼の『この世で一番の親不孝な者は、親より先に死んじゃう子』という言葉をふと脳裏をかすめた。

彼が私の事を話してみたいで、それで彼のアルバムの中にある私の写真を見ていたので、気付き声を掛けたのだという。

私は彼のお母さんが語る、彼の歴史を要点的に聞き、将来、私と結婚するかも知れないよ。と言っていた事を聞いた。

そして、

「貴女は若いんだから。

貴女の人生はこれからなんだから。

貴女は貴女の為に生きなくっちゃだめだよ」

と結んだ。

私は黙って聞いていたけど、気が付けば、涙がつたっていた。

『私は私の為に生きる』

彼の『君は誰の為に生きてるの?』の言葉…、それを彼のお母さんが答えてくれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3806d/>

彼の言葉

2011年1月27日11時59分発行